



ワイルドショック  
**SHOCK!**

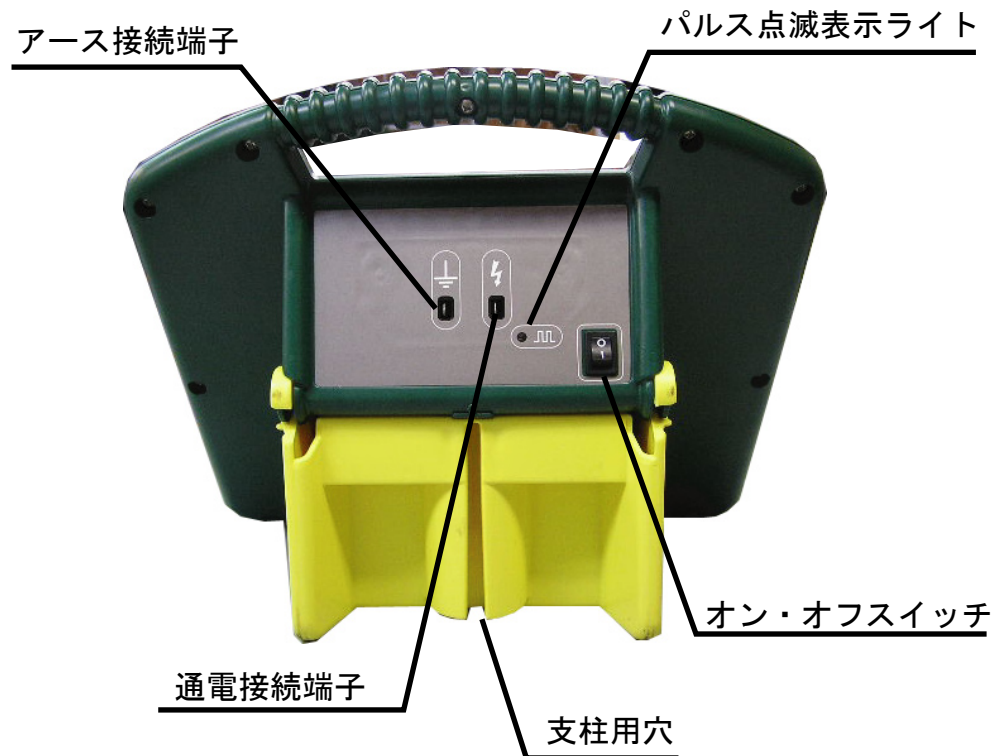


この度はステイフィクス SXJパワーボックスをお買い上げいただきありがとうございます。  
この製品は蓄積されたノウハウにより世界最高水準の最新技術を提供いたします。

## 1. 梱包内容

ソーラー付パワーボックス本体  
アース用コード(黒)  
通電コード(赤)  
取扱説明書  
保証書

## 2. 各部名称



ステイフィクス  
SXJ パワーボックス

取扱説明書

販売代理店  
(直接購入された販売店をご記入ください)

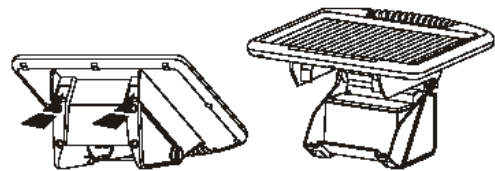
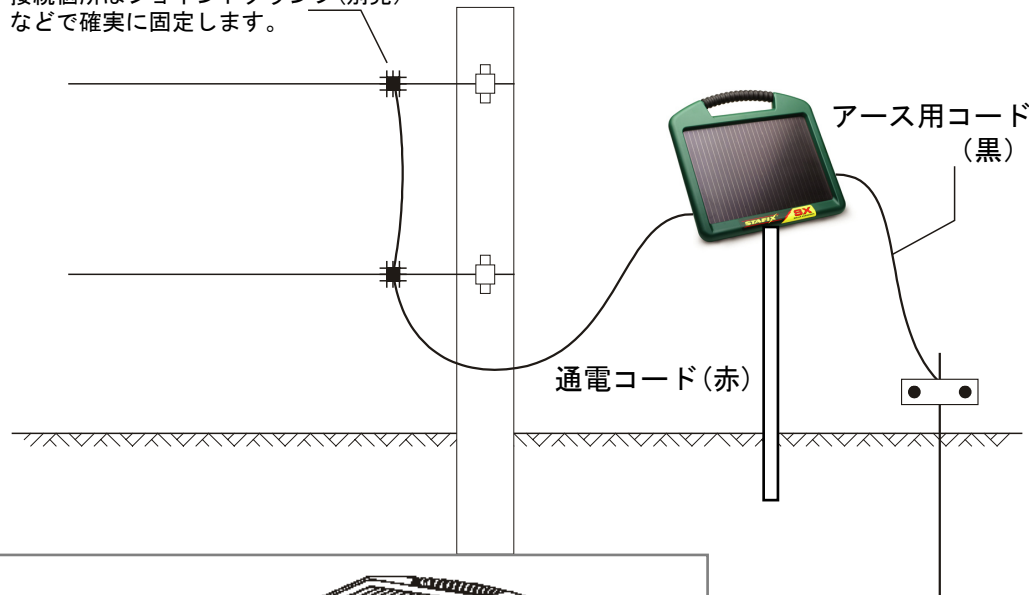
購入年月日 年 月 日

重要:ご使用になる前に必ず取扱説明書をお読み下さい。

# 配線および取り付け方法

1. 本体カバーを開け、バッテリーを接続します。
2. 付属のアース棒を確実に地中に埋設します。
3. 黒のアースコードを本体背面の  $\perp$  マークのアース接続端子に差し込み、アース棒に接続します。
4. 赤い通電コードを本体背面の  $\text{⚡}$  マークの通電端子に差し込み、フェンスに接続します。
5. オン/オフスイッチで電源を入れます。

接続箇所はジョイントクランプ(別売)などで確実に固定します。



- バッテリーの接続について  
本器の脱着クリップを外しカバーをあけます。  
中にバッテリーが入っているので、付属のコネクターを赤は+端子に、黒は-端子に差し込みます。  
カバーを閉じます。

※アース棒設置の詳細については専用アース棒付属の取扱説明書をご参照下さい。

## 3. 使用方法

### 電源オン/オフ

1. 電源オン：背面にあるオン・オフスイッチを I にする。
2. 電源オフ：背面にあるオン・オフスイッチを O にする。

### パルス点灯表示ライトについて

バッテリー残量に応じて、パルススピードが変化します。

1. バッテリー残量あり : 約 1.5 秒間隔で通電
2. バッテリー残量少ない : 約 3 秒間隔で通電

# 保守管理と取扱のコツ

たとえ故障がなくても、定期的な点検管理を行う必要があります、これが電気柵器利用による省力管理の第一歩です。

## ☆バッテリー定期交換

バッテリー式電気柵器の場合、バッテリーの電圧が生命です。バッテリーは、一般的に放電・充電を繰り返すと能力が下がっていきませんが、過放電は最も注意する必要があります。

## ☆電柵の電圧チェック

電圧が低下するとショックが低下します。従って脱柵を未然に防ぐために、電柵の電圧を常にチェックする必要があります。1～2日に一度柵の巡回点検をしてください。(地表面の導通具合により点検場所で異なります。)

牛、豚、犬、猫の例（野生動物の場合、下記の数値プラス500vを目安にしてください）

機種	安全範囲	使用限界	要点検
デジタルボルトメーター	3000v	2500v	2500v未満

# 製品データ

	SXJ
入力	12V
消費電流	20mA
最大電圧	10000V
サイズ	W370xH290xD210mm
重量	5.2kg


# 故障かなと思ったら！

















原因	状態				対策(備考)
	点検順序↓	器械が動かない	ランプ点滅が遅い	ショックが弱い	
電源部	電源コードの差し込み不良	●			
	バッテリーの＋と－接続を逆にしている	●			＋を逆接続すると、作動しないか、器械に負担がかかり故障の原因となります。
	バッテリーターミナルへの接続が不良	●			一度、接続を外しバッテリーターミナル部分を磨いて下さい。
	バッテリーの電圧が低下している		●		バッテリーは、その容量に応じて、定期的な充電計画をたて、実行して下さい。ソーラーの場合、壊れているかパネルの表面の汚れを点検してください。
アース部	アースが不完全			●	アースをチェックして下さい。乾燥したところ又は雪の上ではショックが十分に出ない事があります。
	漏電関係			●	明らかに破損している場合と、絶縁性能が低下している場合と電柵線が脱線している場合があります。前2つは碍子そのものを取替え、後者はバインド線で固定してください。
断線	電柵線が草木が触れている			●	刈り取って下さい。ラジオノイズの最大の原因です。
	電柵線が地面又はアースに触れている			●	
回路	ライブ線が断線			●	ポリワイヤー等のステンレス線が途中で断線していると、その先は電圧がわかりません。不良箇所を新しい線と交換して下さい。
日照り続き	回路内自体の故障	●		●	代理店、又は弊社へ相談して下さい。
	日照り続き			●	地表の電導性が悪くなり、ショックが低下します。


電気柵器自体が故障することは、極めてまれです。ですから、もし故障かなと思ったら、上記の点検順序に従って、簡単な身近なところから点検してください。思わぬところに、よく原因があります。柵器自体の点検は、本体のみの無負荷状態で、試験します。専用テスターを用いて出力をはかり、機種に記載されている範囲の出力(ボルト)が出ていれば正常です。



安全上のご注意

ご使用前に、この安全上の注意をよくお読みの上、正しくお使いください。  
 ※ここに示した注意事項は表示内容を無視して、誤った使い方をしたときに生じる被害や公害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

**警告**  この表示は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。

 禁止 絶対に電子回路の修理・改造はしないで下さい。	 禁止 濡れた手で、電源関係の作業は行わないで下さい。
 禁止 使用対象は動物のみで、人間に対しては使用してはいけません。	 禁止 電柵ワイヤーはとげがないものをご使用ください。
  フェンスには必ず「危険」の表示を行ってください	 禁止 電柵は2次的な事故が発生する恐れのある所には設置しないで下さい。
 禁止 幼児の手が届く範囲に電柵関係機材を設置しないで下さい。	 禁止 フェンス周囲には、鋭利なものがない様にして下さい。
 禁止 川や池など水の溜まっている所で、本器の電気を絶対通電しないで下さい。	 禁止 足や物が引っかかるような位置にワイヤーを設置したり放置したりしないで下さい。
 禁止 引火物は本器はもちろん、電源スイッチ、フェンスすべてに近づけないで下さい。	 禁止 ローソク、蚊取り線香、タバコなどの火気を近づけないで下さい。
 禁止 落雷時にはフェンスや本器に近づかないで下さい。	 禁止 本器の中には一切余計なものを入れないで下さい。
 禁止 体の自由が取れないような、狭い場所では使用しないで下さい。	

**注意**  この表示は「障害を負う可能性または物的障害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

 禁止 電柵工事で切り捨てたワイヤーなどは放置しないで下さい。	 禁止 通電しないときは、フェンスは必ず撤去してください。
--	--

☆ラジオノイズ対策

電柵牧柵器を長く使用していると、ラジオ・テレビに雑音が出ることがあります。これは電柵線のどこかに、下記の問題点が生じている証拠ですので、原因を明らかにして早急に対処して下さい。

1. 牧草や枝が伸びて、電柵線と接触している場合
2. 端子及び連結箇所の接続が不完全な場合
3. 電柵線が脱線しているか、断線している場合
4. アンテナと電柵線が平行になっている場合
5. 電柵器本体が故障している場合（原因では1%以下）

お問い合わせは

**ファームエイジ株式会社**

北海道石狩郡当別町字金沢166 Tel.(0133)22-3060



フリーダイヤル エイジで 良い柵を

**0120-82-4390**

※携帯・PHSからもご利用になれます